

10月の園だより

令和7年9月29日
杉並区立西荻北子供園
園長 須田 なぎさ



ともに喜ぶ「おおきくなったなあ」の瞬間

園長 須田 なぎさ

夏休み明け、「なつのきろく」のご提出ありがとうございました。海やプール、花火、虫とりなど、夏ならではの体験を通して、お子さんたちがどんな時間を過ごしたのかが伝わってきました。先生たちはその記録を手に、お子さんたちとの会話を楽しみ、遊びのきっかけにもしています。ご家庭での様子が園での関わりにもつながり、改めて保護者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

なかでも、「おおきくなったなあと感じたこと」に注目してみました。

まず、どの学年にも共通して見られたのが「お手伝い」のエピソードです。3歳児では「してくれるようになったこと」を喜ぶ声が多く、4歳児では「進んでやってくれる」「相手のことを思ってするようになった」といった思いやりが見られました。5歳児になると、「ひとりで」「考えて」「率先して」行う姿が印象的でした。

お手伝い以外のことでも、学年ごとに「おおきくなった」と感じるポイントに違いがみられました。

3歳児では「トイレに一人で行けるようになった」「怖がっていた花火を自分からやりたいと言った」など、“自分でできるようになったこと”が多く見られました。4歳児になると、「嫌いなものを一口食べてみた」「ルールを守ってカードゲームができるようになった」など、“ちょっと難しいことをやってみようとする姿”が目立ちます。5歳児では、「自転車に乗れるようになった」「泳げるようになった」「服を自分で選ぶようになった」など、挑戦してきたことに加え、「語彙が増えた」「ダジャレを言うようになった」「口答えをするようになった」「『やべ～』『すげ～』などの言葉遣い」など、“言葉の成長”も感じられました。

口答えや言葉遣いの変化は、一見マイナスに捉えられ、時に戸惑うこともあるかもしれません。しかし、こうした変化も子どもたちが自分の考えをもち、周りの世界との関わりを広げている証です。社会性や自立心が育ってきていると捉え、「そんなことも言うようになって、大きくなったなあ」と受け止めてくださる保護者のまなざしが素敵だと感じました。

「おおきくなったなあ」と感じながらお子さんに向けるまなざしは、あたたかく、やさしく、そして心強いものです。そのまなざしに見守られながら、子どもたちは自信をもち、さらに意欲的に物事に取り組むようになります。保護者の皆さまが日々の中で見つけ、喜び、認めてくださるその瞬間こそが、子どもたちの育ちを支える大切な力になっているのだと、改めて感じました。

子どもたちの変化や成長を、保護者の皆様ともに見守っていきながら、また新たな「おおきくなったなあ」に出会えることを楽しみにしています。

今年度、本園から会長・庶務・会計を選出して活動している杉並区PTA連合会（区P連）の本園の要望がかないました。

(1)園内のトイレが洋式になりました。（昨年度の要望） (2)ジャングルジム、砂場のテントのペンキの塗り替えをしました。



← 外倉庫横の
園庭開放用のトイレ

園舎内の大人の
トイレも2か所洋式に
なりました。



区P連の活動が大きな力になっています。ありがとうございました。